

概要

本ソフトウェアは、弊社製ばらまき型傾斜計のデータを読み込み、斜面変状をわかりやすく可視化することを目的としたソフトウェアです。

斜面の変状を【面的】にとらえる地表面傾斜計

『ばらまき型傾斜計』は、従来の「点」での計測から「面」での変状把握を実現する計測器です。斜面に多数のセンサを配置し、無線で接続することによって多点の傾斜を計測します。



高速道路のり面管理



地すべり動態観測



工事現場の安全管理

主な機能

●配置図表示

- ・ばらまき型傾斜計の傾斜データを読み込み、斜面変状をわかりやすく可視化します。
- ・配置図画像とセンサの位置を登録し、傾斜変動を色表現、等値線、傾斜方向ベクトル等で表現できます。
- ・警報（上限色）角度を設定して、傾斜変動を緑（角度0）⇒黄⇒赤（上限角度）とグラデーション表現します。
- ・読み込んだデータを一覧表示し、最新データだけではなく過去データも図化して表示することが可能です。

●傾斜方向図表示

- ・ばらまき型傾斜計の傾斜データを読み込み、各センサの傾斜方向図を並べて表示します。
- ・表示期間や表示グラフ数、スケールや色や太さなど様々な表示設定が可能です。

●経路情報表示

- ・経路情報表示は、ばらまき型傾斜計の各センサからローガーまでの経路情報を取得し、ツリーもしくはリストで表示します。
- ・COMポートによる通信とメールによる通信が可能です。

●データ読み込み

- ・弊社製自動観測ソフト OSNET OBSERVER と連携すると、観測機器のデータを配置図や傾斜方向図に図化できます。自動観測のたびに配置図や傾斜方向図も自動更新されます。（OSNET OBSERVER Ver5.40以降が必要）
- ・ローガーから回収した CSV ファイル、またはフィールド情報サービスや OSNET OBSERVER WEB のホームページから取得した CSV ファイルを読み込めます。

運用イメージ

『ばらまき型傾斜計』のデータを図化して面的な変状を表現する



動作環境

コンピュータ本体

Windows7、Windows8.1、Windows10 が正常に動作するコンピュータ。
 OBSERVER と連携して連続稼働による自動計算を行う場合、24 時間稼働の FA パソコン等、長期運用可能なパソコンを推奨します。
 ※Windows8.1 ではデスクトップ画面で動作するデスクトップアプリとして使用できます。
 ※WindowsRT には対応していません。

ソフト

.NET Framework 4.0
 ヘルプファイルの表示には電子文書閲覧ソフト（アドビシステムズ社 Adobe Acrobat Reader）が必要です。

メモリ

推奨メモリ容量：2GB 以上

ハードディスク

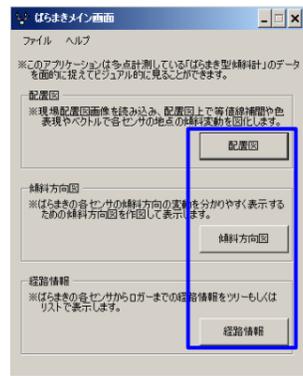
1GB 以上の空き容量。

ディスプレイ

1280×960 ドット以上の解像度。

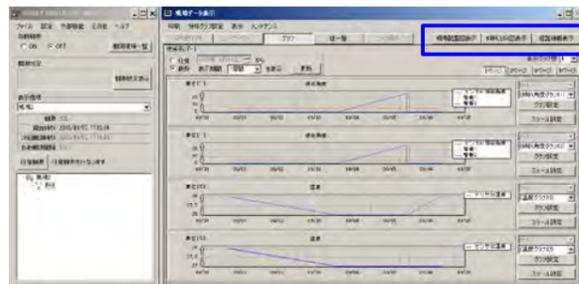
ソフトウェア画面

メイン画面から起動 (単体起動)



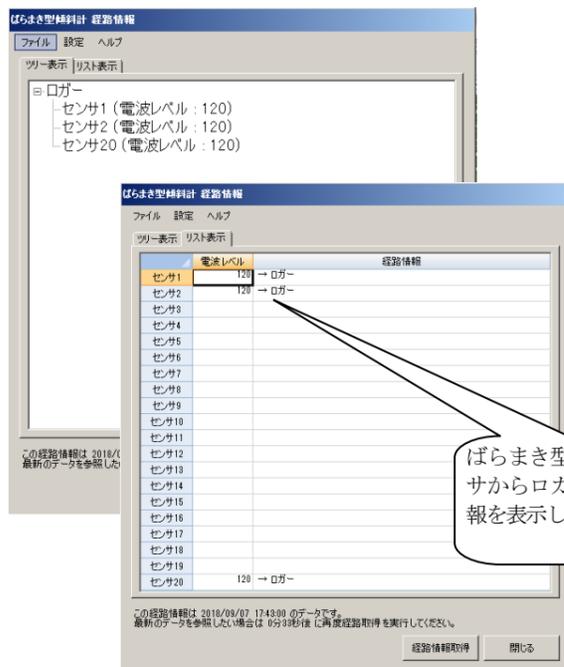
登録している現場が表示されます。
(OBSERVER からの起動は非表示)

OSNET OBSERVER から起動 (連携起動)



OSNET OBSERVER でばらまき型傾斜計の地点を選択すると、それぞれの起動ボタンが表示されます

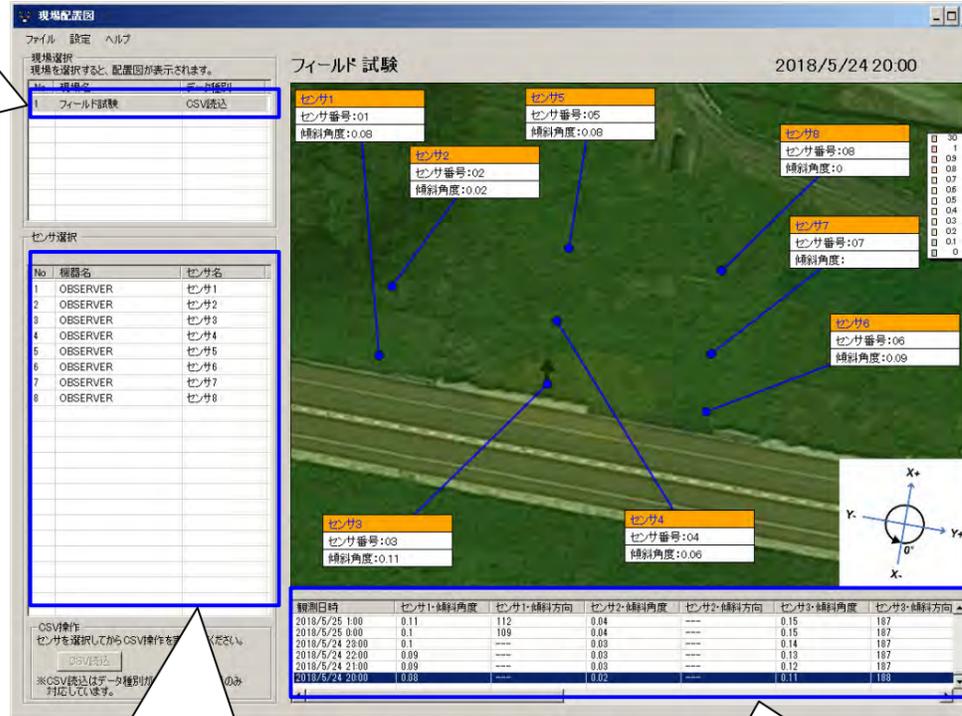
<経路情報表示>



ツリー表示とリスト表示

ばらまき型傾斜計の各センサーからロガーまでの経路情報を表示します。

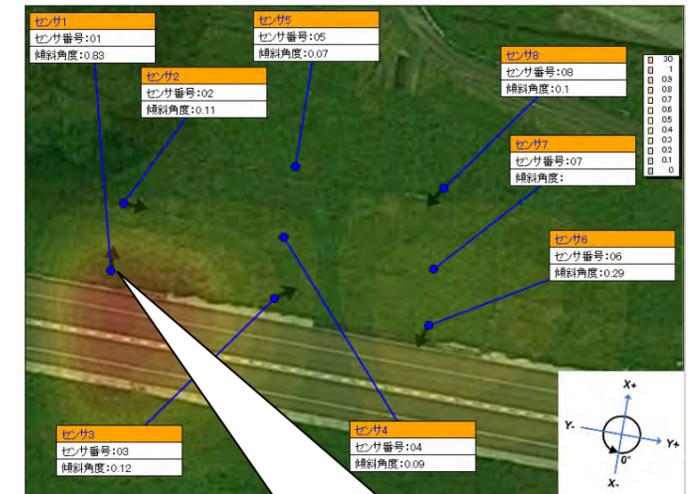
<配置図>



現場に登録している機器名・センサ名が表示されます。
(OBSERVER からの起動は非表示)

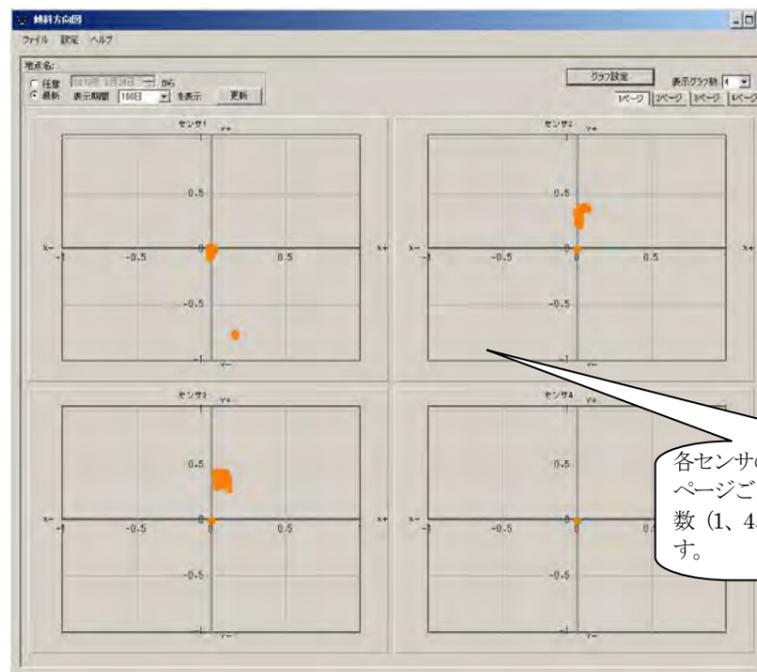
取得したデータが一覧表示されます。
選択した観測データを配置図へ図化表示します。

変が発生すると



各センサーの傾斜角度から、斜面変状を緑⇒黄⇒赤とグラデーション表現します。
また、等値線や、傾斜方向ベクトルなども表示できます。

<傾斜方向図>



各センサーの傾斜方向図を並べて表示します。
ページごと (1~4) に、表示期間や表示グラフ数 (1、4、9、16、20)、各グラフ設定が可能です。

配置図、傾斜方向図は、OSNET OBSERVER が自動観測するたびに自動更新されます。

グラフ設定画面



系列の表示設定画面

